

# きた また 北股地区振興会

- 代表者：会長 加瀬 裕也
- 人口：560人（男273人／女287人）
- 世帯数：143世帯
- 拠点：北股地区センター  
（衣川区小田212番地 ☎FAX⑤ 6513）

（平成24年11月30日現在）

# 結 ⑨ -ゆい-

～ 30の地区振興会による協働のまちづくり実践事例 ～

特色のある地区振興会の事業を紹介するこのコーナー。シリーズ9回目は、衣川区の北股地区振興会を紹介いたします。

北股地区は衣川区の西側に位置し、国見平温泉や国見平スキー場、衣の滝などがあり、一度は訪れたことがある人も多いでしょう。また、衣川が平成4年の夏、5年の冬と2年連続で星空日本一に輝いたときの観測地点としても知られています。

北股地区振興会は、19年4月に設立。18年3月に廃校となった北股小学校を「北股地区センター」として再活用し活動拠点としています。同地区は、人口や世帯数が市内で最も小規模ということもあり、結束力を身上としています。本年度から始めた事業など、特徴的な事業を紹介します。

## ■地域アピール手づくり看板大作戦

本年度初めて行った事業で、地域発信力の強化と連帯意識の向上を目的に、地区ごとに看板づくりに取り組みました。アイデアの検討から看板のデザイン、製作、設置までを地区民自らが実施。地区の特徴



看板製作の様子

を織り交ぜながら、環境保全などをテーマに、90センチ四方のプラスチック板に下絵を描き、ペンキで彩色しました。子どもから大人まで協力しながら製作した看板はどれも力作揃いです。「自然は僕らの宝物」「ポイ捨てで山が泣く」などの標語が入ったものもあり、道行く人への啓発にもつながっています。地区センター職員が製作したものとあわせ、地区内8カ所に設置されています。目立つところにありますので、ぜひ探してみてください。



## ■北股ふるさと便お届け交流事業

県外に住む同地区出身者との交流を目的とした「北股ふるさと便お届け交流事業」は本年度からの事業です。地区振興会だよりや衣川区のミニ広報などを定期的に送るもので、先月1回目の発送を行いました。当面は、昭和30年度から39年度に北股小学校を卒業した人のうち、東北地方と首都圏に住む95人に送付。評判を見ながら対象を拡大することも検討しています。

来年度は、季節ごとに地場産品を直送する計画です。将来的には、婚活や農業体験にもつながることを目標としています。また、宿泊施設にも思いを巡らせ、「未知数だが期待を寄せている」と加瀬会長は話します。



ふるさと便に同封した資料

国見平スキー場がある地域特性を生かして行われてきた「雪のうんどうかい」は、平成23年度から、前沢地区連合振興会、衣里地区振興会との共同事業として開催。子どもたちの交流と冬期のレクリエーションを目的としたこの事業には、前沢・衣川の両区から約90人が参加。宝探しや人力ばんばレース、かまくら体験などを通して、子ども同士の活発な交流を図ることができました。参加者からは「他の学校の子と仲良くなれた」「来年もまた参加したい」という感想がありました。本年度は、南股地区会も共催として加わり、2月3日に開催します。



人力ばんばレースを楽しむ参加者

## ■雪のうんどうかい



奥州市教育振興

地域による子育てを語る新田新一郎さん

市教育振興運動推進協議会などが主催する「教育振興運動講演会」が12月8日、(有)プランニング開の新田新一郎代表取締役を講師に迎え、水沢地区センターを会場に開催されました。教育関係者など55人が参加し「子どもを育てるのは、学校や家庭だけでなく地域の大人たちの関わりが必要」と熱く語る講師の話に耳を傾けました。

## 「地域ので子どもを育てよう」



応募句・子どもの部の入賞者

梧逸<sup>とてい</sup>忌<sup>き</sup>第23回全国俳句大会(同実行委員会主催)が12月7日、前沢ふれあいセンターで開催されました。同大会は、前沢が生んだ俳人の故・遠藤梧逸師の命日に毎年開催しており、当日は約100人が参加。また、応募句には全国から3019句の応募がありました。市内の小中学生が多数入賞しており、第2、第3の梧逸師誕生が期待されます。

## 「郷土出身の俳人をしのび俳句大会」

## 「市内スキー場オープン」



安全を祈願する小沢市長

国見平スキー場(衣川区)、越路スキー場(江刺区)、ひめかゆスキー場(胆沢区)で12月22日、スキー場開きが行われました。

はらはらと雪が舞う国見平スキー場では、小沢昌記市長をはじめ関係者約50人が出席して安全祈願祭が行われ、シーズン中の安全と多くの来場を祈りました。その後、小沢市長と国見平スキー学校スタッフが試験滑走を行い、雪の感触を確かめました。

市内3スキー場では、19歳の人のリフト代を無料とする「雪マジ!19」を展開中です。

## 「おめでどう!百歳を祝い2人に記念品」

市は、12月に満百歳を迎えた2人に記念品を贈り、長寿を祝いました。

千田ツキヲさん(前沢区古城字千刈田)は胆沢区小山に生まれ、18歳で故・運作さんと結婚。4男1女をもうけ、孫10人、ひ孫10人、やしゃご2人に恵まれました。運作さんと二人三脚で農業に従事する傍ら、子育てや家事も立派に務めました。水沢のお祭りや九州旅行が楽しかった思い出です。長寿の秘訣は、「一生懸命働いて何でも食べてきたことと話すツキヲさん。集まった家族や親戚と一緒に



家族や親戚に囲まれる千田ツキヲさん

お祝いの歌を歌いました。小野寺勇基さん(衣川区岩の上)は現住所地に生まれ、30歳のとき、清子さんと結婚。1男2女をもうけ、孫9人、ひ孫8人に恵まれました。26年間の教員生活を経て、昭和34年に衣川村長に当選。16年間村長を務めました。また、農協組合長や社会福祉協議会長なども歴任しました。「教員時代の赴任先、六原青年道場訓練主任時代の厳しい鍛錬が自身の健康に有益でした」と語ります。日課は新聞や本を読むこと。長寿の秘訣は腹八分目の食事です。



記念品を受け取る小野寺勇基さん